

小豆島 瀬戸内国際芸術祭 2016 と 観光のご案内 Vol.1



Photo:Hideaki Hadeaki

掲載・取材に関するお問合せ先  
香川県小豆島町 PR Support : HOW INC.  
[info@how-pr.co.jp](mailto:info@how-pr.co.jp) Tel:03-5414-6405、 Fax:03-5414-6406

## 小豆島

美しい海と山。雄大な自然に恵まれた小豆島は、長きにわたり、海の交流拠点としての役割を果たし、自然、文化、伝統、産業、人情など島のもつ魅力がじっくりと地層のように蓄積されてまいりました。

瀬戸内海国立公園に浮かぶ、美しい自然に恵まれたこの町は、日本におけるオリーブ栽培発祥の地として、また、壺井栄の名作「二十四の瞳」を代表とする文学や日本映画の撮影地、中山農村歌舞伎などの様々な伝統文化、400年の歴史を誇る醤油をはじめとし、佃煮、そうめんなどの産業が盛んなまちとしても知られています。

2010年から3年ごとに開催をされている瀬戸内国際芸術祭への参加を通し、最近では、アートの町としても話題を集めています。

そして、瀬戸内国際芸術祭2016を来年に控え、その概要も決定いたしました。

内外のアーティストや地域の人々との交流が、人と人、島と島をつなぎ、瀬戸内の未来を拓く島を目指して取り組んでまいります。

### 小豆島

小豆島は、瀬戸内海国立公園の中心地で、広さはわが国で19番目の島。20余の属島を含め、169.86km<sup>2</sup>の面積を誇ります。人口は約3万人（2014年現在）。古くは、吉備・備前の児島郡に属したが、弥生時代から塩が生産され、御名代地や皇室、神社などの塩荘園として発展した。瀬戸内海の要衝にあって、漁業、造船、廻船業も盛んであったが、豊臣家の蔵入地となり、さらに江戸幕府からも加子浦に指定されてまいりました。また、10世紀ごろからこの島は海賊の拠点のひとつであったともいわれ、紀州熊野水軍や伊予村上水軍とも連携があり、島の水軍利用のため、近世に幕府などの直轄地となりました。江戸時代、良質で知られた塩が生産過剰になると、醤油の産地に転換、素麺、石材などとともに、島の経済を支え、江戸中期には讃岐高松藩の預り地となり、後期には、島の東部が伊予松山藩の預り地になるなど、離島らしいいくつもの変遷がみられました。1838年には島の西部が美作津山藩領となりましたが、明治になって香川県に所属、1878年に小豆郡を形成しました。44を数えた村が次第に統合され、1957年に土庄町・内海町・池田町の3町になり、その後2006年には内海町・池田町が合併して小豆島町が発足し、現在は土庄町・小豆島町の2町から成ります（2013年現在）。

### Setouchi Triennale 2016 /瀬戸内国際芸術祭 2016 概要決定

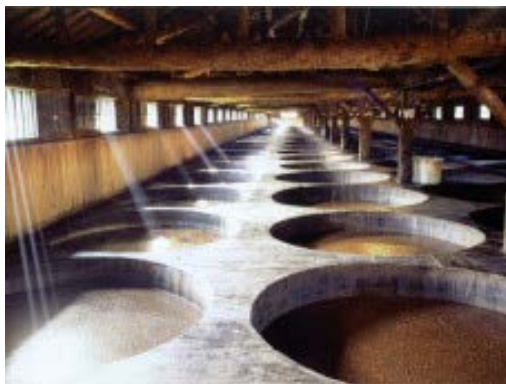
瀬戸内国際芸術祭2016では、引き続き地域の資源を大切にしたい新しいプロジェクトを展開するとともに、2010、2013から活動を続けてきた各作家・プロジェクトにおいてもさらに発展性のある展開を図ります。各作品展示やイベントについては、次ページで詳細にお知らせをしていますが、小豆島にある7つの港全てでアートが展開されます。

椿昇「小豆島町未来プロジェクト」では、インドからの招聘作家4組5名の作品展示のほか、草壁港ジェラテリアプロジェクト（graf+FURYU）、草壁港公共トイレ（中山英之）、二十四の瞳前映画村前での新規作品展示（清水久和）などがあり、また、福田では、福武ハウスを中心にアジアとの国際交流や食の拠点としてプロジェクトを展開します。三都半島では初めて広島市立大学が地域の人とアートで交流します。また棚田が広がる中山では、ワンウェンチャーさんによる3回目の竹を使った作品が展開されます。

その他、コシノジュンコとのプロジェクトなど新規プロジェクトも多数展開されます。

### プレスツアーについて

2016年に向け、小豆島へのプレスツアーを順次組んでまいります。ご興味のある方は個別にお問い合わせください。



小豆島における Setouchi Triennale 2016 /瀬戸内国際芸術祭 2016 概要

10月19日に瀬戸内国際芸術祭 2016 についての公式発表がありました。小豆島でも各地で様々な作品展示やイベントが展開されます。小豆島で、今回新しく展開する作品と前回から継続して展開する作品をエリア別に紹介します。

テーマ	<p>「海の復権」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアを中心とした国際的な文化交流</li> <li>・生活文化の基本である地域の「食」プロジェクトの推進</li> <li>・県内や瀬戸内の他地域との連携</li> </ul>
開催期間	<p>春：3月20日－4月17日</p> <p>夏：7月18日－9月4日</p> <p>秋：10月8日－11月6日</p> <p>会期総計 108日間</p>
開催場所	<p>直島・豊島・女木島・男木島・小豆島・大島・犬島・沙弥島・本島・高見島・粟島・伊吹島・高松港周辺・宇野港周辺</p>

**土庄・瀨崎**

- ・迷路のまち(土庄本町)で作品制作/目
- ・UBEピエンナーレ大賞作家の作品展示/竹慶耕平
- ・作品展示とイベント開催/コシノジュンコ
- ・伊吹島での《大岩島2》を再展示/大岩オスカル

**北浦・大部**

- ・石彫る楽譜と音楽の制作、演奏/秩父前衛派
- ・砂や泥を使った作品制作/リン・シュンロン(台湾)

**肥土山**

- ・既存作品《猪鹿垣の島》を少し拡張/斉藤正人
- ・肥土山の歌舞伎舞台を活用したイベントを計画
- ・稲わらを素材にした作品展示/わらアート

**中山**

- ・竹を使った作品制作/ワン・ウェンチー(台湾)
- ・中山の歌舞伎舞台を活用したイベントを計画

**草壁・池田**

- ・インドから招聘する作家の作品展示 / Pors&Rao, Sarnath Banerjee, Sahej Rahal
- ・草壁港 ジェラテリアプロジェクト / graf+FURYU
- ・草壁港 公共アートトイレ / 中山英之
- ・若手作家の作品展示 / 村上慧

**三都半島**

- ・広島市立大学教員の作品展示 / 広島市立大学プロジェクト(仮)

**福田**

- ・校舎での企画展示、福田家プロジェクトの作品追加  
福田アジア食堂、地域プログラム、シンポジウム予定  
/ 福武ハウス-アジア・アート・プラットフォーム2016

**安田・馬木・苗羽・坂手・堀越・田浦**

- ・インドから招聘する作家の作品展示 / Sosa Joseph, Sahej Rahal
- ・醤油会館茶室プロジェクト / 京都造形芸術大学 城戸崎和佐ゼミ+graf
- ・二十四の鐘映画村の前で作品展示 / 清水久和
- ・若手作家の作品展示 / 笹岡由梨子、黒崎香織
- ・堀越暮らしのわプロジェクト / 小豆島町民+早稲田大学 古谷誠章研究室
- ・港の劇場 / 劇団 ままごと
- ・Creator in Residence [ei] / UMA/design farm+MUESUM
- ・小豆島カタチラボ / graf
- ・Umaki camp / ドットアーキテクト

その他「遊児老館」、「ファームステーション安田の郷」、  
「愛のバッドデザインプロジェクト」など取り組みを開催。

小豆島町未来プロジェクト  
(ディレクション：権興)

\*開催期間：ゴールデンウィーク、シルバーウィーク期間中の開催も検討中

## 小豆島町長 塩田幸雄 ブログより 抜粋

芸術祭は、私が小豆島に戻った年に始まりました。「海の復権」をテーマにしています。この芸術祭は、もともと、豊島の産廃問題を克服し、瀬戸内海の本来の魅力と可能性を、アートを通して、取り戻し、再確認し、世界に発信することを目指すものというのが私の理解です。

最初は、アートへの造詣がなかったこともあり、芸術祭の小豆島にとっての意味を、私自身はかりかねていました。ところが大勢の皆さんが小豆島を訪れて、島が賑わっていくのを見て、「芸術文化を通して小豆島は元気になることができるのでは」と、考えるようになりました。

2回目の瀬戸内国際芸術祭2013の準備と対応は、私なりにベストを尽くしたつもりです。アーティストの皆さんにも、島民の皆さんにもベストを尽くしていただきました。その結果、少しは確かな手ごたえを感じる事ができたように思います。そして、いよいよ来年、3回目の芸術祭です。

「醤の郷+坂手港プロジェクト」は、名前も変え、内容も充実して、「小豆島町未来プロジェクト」として、次のステージを目指します。名前のとおり、対象地域は、小豆島町全域と考えています。ただし、今回のアート・プロジェクトの展開地域としては、後で紹介するように福田、三都半島、中山地区は別のプロジェクトとなります。

「小豆島町未来プロジェクト」のアートディレクターは、「醤の郷+坂手港プロジェクト」の椿昇京都造形芸術大学教授です。展開地域として、醤の郷（馬木・苗羽）と坂手のほかに、池田港周辺、草壁、安田、堀越、田浦地区が加わります。

来年の芸術祭では、小豆島のすべての港でアートが展開されます。坂手港と福田港のほか、草壁港、池田港が加わります。ちなみに土庄町の大部港でもアートが展開されます。

もうひとつ、芸術祭全体でも初めてインドのアーティストが加わります。

堀越では、早稲田大学の古谷教授の建築学研究室メンバーが地域の皆さんとともに、平成の「猪鹿垣」づくりにチャレンジします。

また、注目すべきは、ファームステーション安田の郷で、農と食とアートの取組みが、東條地域農業集団と立命館大学の及川教授の建築学研究室メンバーとのコラボにより秋会期に行われます。

坂手港では、「遊児老館」において、アーティストと地域の皆さんによって、アートと食と福祉をつなぐプロジェクトが行われます。

前回の芸術祭の人気作品、「オリーブのリーゼント」の清水久和さんは、新作を二十四の瞳映画村の海岸につくられるほか、小豆島全域で島の若者と一緒に、「愛のバッドデザインプロジェクト」を展開します。

福田の「福武ハウス」では、来年の芸術祭の大きなテーマであるアジアとつながる取組みが展開されます。今回は、アジアの台湾、インドネシア、タイ、中国など8か国のアーティストが参加します。アジアの国々の皆さんと福田の皆さんがアートや食などを通して、直接つながり、交流します。取組みは、アートにとどまらず、地域の在り方、国と国の交流、国を超えた人と人のつながりの在り方などがテーマとなります。

三都半島では、初めて広島市立大学の皆さんが、地域の皆さんとアートを展開します。中山では、二度の芸術祭で評価の高かった台湾のワン・ウェンチーさんが、竹をつかった作品を三度制作展示されます。

以上が来年の芸術祭のラインアップです。土庄町でも、土庄港で、コシノジュンコさんが初めてアートに取り組みされるなど、楽しい企画がたくさん予定されています。

アーティストの皆さん、地元の皆さんには、これから多大なご尽力とご協力をお願いします。どうぞよろしくをお願いします。

来年の瀬戸内国際芸術祭2016は本当に楽しみです。後年、小豆島がこの年、歩みに、はずみをつけたと言われるはずです。（平成27年10月30日）

## 瀬戸内国際芸術祭 2016 開催概要

名称： 瀬戸内国際芸術祭 2016/Setouchi Triennale 2016

期間： 春 3月20日(日・春分の日) - 4月17日(日) 29日間

夏:7月18日(月・海の日) - 9月 4日(日) 49日間

秋:10月8日(土) - 11月6日(日) 30日間

※ 会期総計: 108 日間

※ 開催期間：ゴールデンウィーク、シルバーウィーク期間中の開催も検討中

会場： 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島(春会期)、本島(秋会期)、高見島(秋会期)、粟島(秋会期)、伊吹島(秋会期)、高松港周辺、宇野港周辺

テーマ：海の復権

「島のおじいさんおばあさんの笑顔を見たい。」—そのためには、人が訪れる“観光”が島の人々の“感幸”でなければならず、この芸術祭が島の将来の展望につながって欲しい。このことが、当初から掲げてきた目的=『海の復権』です。今、世界のグローバル化・効率化・均質化の流れの中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力の低下によって、島の固有性は失われつつあります。私たちは、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内国際芸術祭を開催しています。

新規作家アーティスト一覧

[http://setouchi-artfest.jp/images/uploads/pdfs/j\\_2015tokyo\\_artists.pdf](http://setouchi-artfest.jp/images/uploads/pdfs/j_2015tokyo_artists.pdf)



メイングラフィックについて デザイナー：原研哉  
瀬戸内国際芸術祭の島々を巡りアートを訪ね歩く楽しさは、「船」によって象徴されます。2016年は、島々を行き交う「船」をモチーフにしました。予告ポスターでは、芸術祭2013からのつながりをイメージさせる、「はためく旗」と「船」の写真を使用。春ポスター・夏ポスターは、「船」と軌跡の写真を使用することで、島への旅立ちの予感を感じさせます。秋ポスターは、船が写っていない軌跡の写真を使用し、芸術祭の最後のシーズンを迎えるノスタルジーを表現しました。トータルとして、芸術祭2013からの刷新感と会期毎の展開の期待感を感じさせる、静的で深い意味を込めたビジュアルにしました。

予告ポスター



春ポスター



夏ポスター



秋ポスター



## 香川県小豆島町 プレスツアーのご案内

### ◇ 概要

メディアの方に向け、小豆島町をご案内するプレスツアーを開催いたします。小豆島町は瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中央から東に位置する、海と山の美しい自然に恵まれた町です。日本におけるオリーブ発祥の地として、また、日本映画の撮影地としても知られていますが、瀬戸内国際芸術祭に参加したことで、現在アートやデザインの町としても話題を集めています。今回は、小豆島町の文化や魅力を多くの人々に知ってもらうため、島の取組みや小豆島に新たに芽生えつつあるアートやデザインなどの新しい文化もご紹介しながら、小豆島をご案内するツアーを開催いたします。

### ◇ ご提供内容

- ・ 東京⇄小豆島への交通機関費用（往復）
- ・ 小豆島での宿泊費用 1～2泊（要相談）

### ◇ 依頼内容

小豆島町は、瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中央から東に位置する、海と山の美しい自然に恵まれた町です。日本におけるオリーブ発祥の地として、また、日本映画の撮影地としても知られています。小豆島町が誇る豊かな自然、食、アートなどを通して、ご取材記事をご検討頂きたく存じます。プレスツアーではご希望を伺いながら、小豆島町の人々や自然、食、アートをご案内いたします。

\*掲載についての条件などは個別にご相談させていただきます。

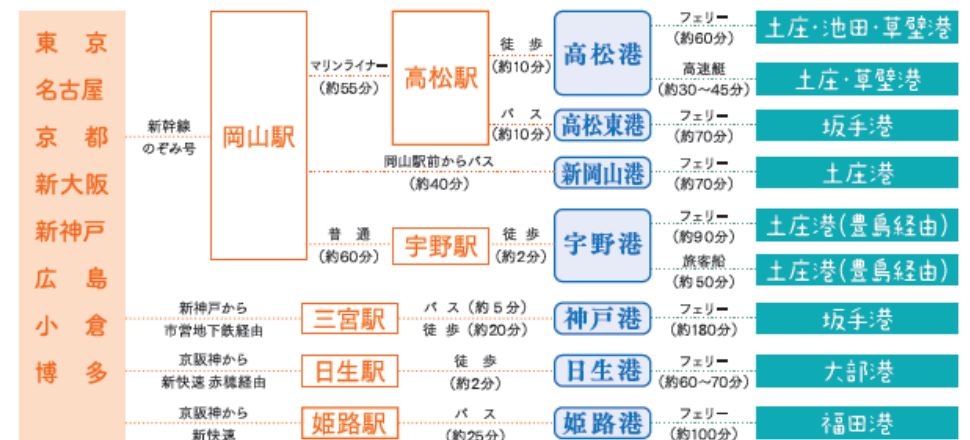
### ◇ 交通案内

小豆島は、瀬戸内海で2番目に大きな島です。本土からの橋はなく、必ず船に乗ります。船に乗ると国内旅行でも、どこか特別な感覚を覚えます。夕暮れのフェリーでは、瀬戸内海のサンセットをお楽しみいただくことができます。また、東京からお越しの場合には、新幹線のほか、羽田ー高松を飛行機で移動しフェリーに乗っていただくのが快適です。

### ◇ プレスツアー開催時期

2015年12月より。

期間に関するリクエストなどがございましたら、お気軽にお申しつけ下さい。



◇ 観光案内

寒霞渓 <http://www.kankakei.co.jp>

瀬戸内海国立公園の象徴、日本三大渓谷美のひとつとも称される寒霞渓は、表12景、裏8景からなる雄大な景勝地です。自然の造形美とも言える現在の姿に、自生する植物が季節ごとの彩りを添え、素晴らしい渓谷美を醸し出しています。山頂からの眺めはもちろん、ロープウェイに乗り込み、深い渓谷と、穏やかに広がる瀬戸内海を眺めながらの空中散歩というのもおすすめです。自然を肌で感じながら、探勝できる登山コースも用意されています。初夏の新緑と秋の紅葉は特におすすめです。



小豆島霊場 八十八カ所巡り <http://reijokai.com>

弘法大師（空海）が生国である讃岐（現在の香川県）から京都へ上京または帰郷する際に、しばしば立ち寄り、島の各所で修業や祈念を行なったとされる霊験あらたかな霊場とされています。88ヶ所に奥の院6ヶ所を含めた94ヶ所が公認霊場となっており、パワースポットとして知られています。



二十四の瞳映画村 <http://24hitomi.or.jp>

映画「二十四の瞳」のロケに使ったオープンセットが残されています。一歩中に足を踏み入ると、そこはまるで昭和初期。なかには、壺井栄文学館や「二十四の瞳」を上映する映画館、季節を彩るお花畑もあります。



中山の棚田 <http://shodoshima.or.jp/?p=807>

棚田百選にも選ばれた棚田。

7月に開催される、豊作を祈る行事「虫送り」は八日目の蝉のシーンでも有名になりました。



道の駅 小豆島オリーブ公園 <http://www.olive-pk.jp>

『オリーブ記念館』の中には、オリーブの歴史や産業が学べる『オリーブまるごとギャラリー』や、オリーブやハーブを使った小豆島ならではの商品が取り揃えられた『売店』、オリーブはもちろん魚介類、野菜を使った小豆島生まれの地中海料理が食べられるレストラン『地中海料理オリヴァス』などがあります。



◇ 食文化

小豆島は、食材の宝庫です。人口は約30,000人の島ですが、豊かな自然と広い海に囲まれているため、様々な食材が豊富に揃います。また、小豆島の食材を使ったこだわりのお店も沢山あります。（小豆島の特産品：オリーブ／手延べ素麺／佃煮／醤油／電照菊／すもも／ひしお丼など）

小豆島は醤油の発酵に最適な、温暖で乾燥した気候を有し、全国で1%以下と言われる本来の木桶仕込み醤油醸造を行った醤油の大部分が小豆島で醸造されています。実際に製造工程を見学できる醤油蔵や、醤油蔵の並ぶ町並みを楽しんでいただくことができます。

醤の郷参考ホームページ <http://kelly.olive.or.jp/index.html>

ヤマロク醤油 <http://yama-roku.net>

杉の木桶で昔からの製法で醤油作りを行う醤油蔵。もろみ蔵は100年以上前（明治初期）に建てられた蔵で、国の登録有形文化財に指定されている。

正金醤油 <http://shokinshoyu.jp>

大正9年（1920）創業。当社は、創業当時から仕込み続けている杉の木桶を用いた天然醸造醤油、そして、それを使って無添加で仕上げた「だし」「ぼん酢」などを生産。

平成14年から、近所の同業者として古くから親交の厚かった山吉醤油が廃業したのに伴い、その蔵を引き継いで製造を始め、現在では120本余りの木桶を有し、その中で諸味をじっくり熟成させることにより、風味豊かな醤油を育てている。

小豆島食品 <http://kelly.olive.or.jp/shop/shimasyoku/>

素材本来のうまみを味わってもらうための佃煮作りを行う。

森國酒造 <http://www.morikuni.jp/>

手作業で良質な酒造りをしている。小豆島は35年前にあった酒蔵が廃業して「地酒」がなく、2005年に誕生した森國酒造が小豆島唯一の酒蔵。築70年の佃煮工場をリノベーションショップやカフェ&バーも併設されている。

参考情報

食の原点小豆島 <http://shodoshima-food.com/>